

「ふるさとを愛し 夢を育む 賢く優しくたくましい子」

- ・(ひ) 人の話をしっかり「きく」ことのできる子
- ・(や) やさしく 思いやりのある子
- ・(く) くじけず 最後までがんばる子
- ・(た) たくましく 健康な子



<http://www.hyakuta.m-alps.ed.jp/>

二学期開始 まん延防止等重点措置に当たり

新型コロナウイルス蔓延拡大に伴い、山梨県にもまん延防止等重点措置も出され、緊張の毎日です。いつ、だれが、どこで感染するかわからない状況です。またデルタ株は、若年層や子供にも感染する可能性が高く、発症の危険性もあります。まず日常の感染防止対策（手洗い・うがい・消毒、マスク着用、密防止等）をこれまで以上に丁寧にするとともに、もし本人や同居家族に体調不良や風邪症状が現れたときには躊躇なく休むこと（兄弟姉妹、早退等の場合も同様となります）、またかかりつけの医療機関に相談することをお願いいたします。あわせて、児童だけでなくご家族がPCR等の検査を受ける際には、これまで同様に受けることが決まった時点で（結果が出てからではなく）学校または緊急携帯（080-3700-6919）までご連絡ください。

日本各地で児童生徒の感染が増え、休校措置をとる学校がいくつも出ていることを耳にします。学校職員、児童、保護者、ご家族…どんなに気を付けていても、誰にでも感染の危険性があります。万が一感染した場合には、肉体的にも精神的にも一番苦しむのは感染した方です。ぜひ他人事と思わず自分事と捉え、温かく見守る、できるフォロー体制を整える…そんな白根百田小学校でありたいと思います。ぜひご協力ください。

加えて、二学期には運動会や校外学習など、いくつもの行事が予定されています。非常事態宣言やまん延防止等重点措置、緊急要請等が出された場合、万が一学校内に感染者が出た場合などには、大きな変更や延期、時には中止となる場合も有ります。最大限の対策をとっていきますが、学校判断だけではできないこととなりますので、その場合にはご理解いただけますよう重ねてお願い申し上げます。

授業を始めるに当たり、教室内での距離をより保つような工夫をするとともに、必要に応じ教室以外の場所（特別教室やホール等）を活用し、できる範囲で密防止を図ります（～9/10）。また、少しずつオンライン授業の準備も学年の発達段階に応じ、教師・児童共に始めていきます。人数の多い高学年は、クラスを分けての授業も出てきますがご理解ください。なお、それでも感染のリスクの高い授業（調理実習、合唱、一斉でのリコーダーや鍵盤ハーモニカ、グループ活動や共同制作、話し合い活動等）は、しばらくの間は行いません。また、当面学年をまたぐ交流活動や行事なども計画しません。



感染者が減り、安心して学校に登校できる日が1日でも早く来ますように、みんなで努力を続けていきましょう。

新学習指導要領がねらいとしていること

未来, 技, 誠実, 意志, 爆発, クラウド, 立体, 宇宙, 猿

上にあげた九つの単語の中から三つ以上を選んで、自由に文章を作成してください。物語、詩、自分の考えなどどんな内容、表現方法でも結構です。

これは、平成28年度採用 旭化成エントリーシートにあるものです。皆さんなら、どんなことを文章に表現しようと考えますか。また、採点者だったとしたら、どんな視点で点をつけますか。

これらの言葉については、どれも聞いたことがあるものであり、その多くは知っている言葉であるかと思えます。しかし、その中から意味を考えて単語を関連付け、自分の考えとして表現するためには、随分頭を使うことになるのではないのでしょうか。何を書けば正解なのか、どんな風に書けばこの会社に採用してもらえるのか、それを考えることさえ難しい問題だと思えます。

これまで学校では「読み・書き・計算」などの基礎的な知識や技能の習得が重んじられてきましたが、今ではこれに加え、知識や技能を活用できる主体性をもった育成が重視されており、大学入学共通テストや企業の就職試験にまで色濃く影響が出てきているところです。

このエントリーシートは一例ではありますが、本校でも新学習指導要領のねらいを基に、児童の学び合いをテーマとし、日々学習指導の中で「アクティブ・ラーニング」あるいは「主体的・対話的で深い学び」を重視し、能動的で実践的な視点での学習を目指しています。「active」は文字通り活動的、積極的、能動的などの意味であり、「passive」の対義語であります。つまり、知識として頭の中でどうあるべきか知っているだけでなく、学んだことの良さや効果を実感して、さらにどうあるべきかを実践や行動で表現できるという地点まで進む必要があるのです。このような力を実際に学校生活において、児童の生き方として具体化するとすれば、穴埋め問題や単に記憶力を試すようなテストでは不十分になります。日々の学習を点数化できるものだけでなく、人間としての成長と捉える必要が出てきます。新学習指導要領における育成すべき資質・能力の三観点「知識及び技能（何を理解しているか・何ができるか）」「思考力、判断力、表現力（できることや理解していることをどう使うか）」「学びに向かう力、人間性（どのように社会や世界と関わりよりよい人生を送るか）」はこうして出てきているのだと考えます。

猿が人の祖先であるならば、人とは何の祖先になりえるのだろうか？ 学校や家庭、地域で行われるすべての学びは、人間に対する「これから、どうあるべきか」という期待への永遠の問いかけなのかもしれませんね。

「学力」を、様々な場面での言動・実践・行動として捉えながら、これまで以上に子供たちの学力向上に重点を置いていきたいと考えます。考え合ったり話し合ったり（しばらくはできませんが）しながら、大いに学びを深めていってほしいものです。

さあ充実の二学期が開始です。

小学校

学習指導要領(平成29年告示)

平成29年3月 告示